様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年　6 月 26 日現在

機関番号：34524
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2009～2010
課題番号：21890288
研究課題名（和文）：脳卒中失語症患者とのあいだで交感が成立している看護師の特徴
研究課題名（英文）：The characteristics of nurses who establish communion with stroke patients with aphasia.
研究代表者：山下　裕紀（YAMASHITA　YUKI）
兵庫大学・健康科学部・講師
研究者番号：40326319

研究成果の概要（和文）：

看護師の特徴として，【患者の視線を自分に合わせようとする】【物を示しながら患者に声をかける】【患者にゆっくり声をかける】【ジェスチャーを活用する】【患者に触れる】【時間をかける】【患者の気持ちを代弁する】【患者の顔を見つめる】を抽出した．脳卒中失語症患者と交感を成立させている看護師には，患者が戸惑いなく身を委ねられる振る舞いや働きかけがあることが示唆された．

研究成果の概要（英文）：
The following characteristics of nurses who established communion were extracted: “Aligning oneself to the perspective of the patient,” “Showing objects while speaking to the patient,” “Speaking slowly to the patient,” “Using gestures,” “Contact with the patient,” “Spending time with the patient” “Speaking on the patient’s behalf,” and “Watching the patient’s face.” The findings suggest that nurses who establish communion with stroke patients with aphasia adopt behaviors and actions that the patient can rely on and that avoid causing the patient discomfort.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
年度			
年度			
年度			
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	920,000	276,000	1,196,000
総　計	1,720,000	516,000	2,236,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護
キーワード：交感・脳卒中失語症・実践知

１．研究開始当初の背景

脳血管疾患は，日本における死因の第三位であり，初発の脳血管障害のうち運動機能障害を有するものは半数を占める．脳血管障害により変化した身体に，自身の奮闘による回復の効果が見えなくなってくる発症5ヶ月後に，患者は苦悩を体験すること（Doolittle,D.N,1994）が明らかになっている．また，脳梗塞からの回復体験についてのインタビューで，脳梗塞を体験した人の世界は喪失とそれに伴う努力として経験される（Thomas,P.S,Polio,R.H,2002）ことが明らかにされている．一方で，その語る言葉，そのものを失う脳卒中患者も少なくない．失語症は字の如く，語ることを失わせ，さらに身体麻痺が，その語りを字に起こすことまでも難しくさせる．また失語症の数少ない治療法である言語療法や薬物療法も，その効果が全面に期待できない現状にある（大山,2005）．このような状況において，患者は自己表現の手段を奪われ，他者との意味に満ちたやりとりをも奪われかねない．つまり，脳卒中失語症患者は幾重もの不自由さ，苦悩と向き合うことを迫られている．

スウェーデンの Sundin.K（2001）は，熟練した看護師の脳卒中失語症患者との関係を探求し，そのコミュニケーションは，感情と体験を分かち合うことで成り立っていること，その成立はお互いのプレゼンスが不可欠であることを明らかにしている．またこれらの結果から，このコミュニケーションが，Stern.D（1985）が明らかにした，乳児のコミュニケーションの様相，すなわち交感（Communion）と似ているという示唆を与えていた．

今まで，脳卒中失語症患者の言葉を呼び起こす手がかりの探求があらゆる専門領域でとりくまれている．そして諸外国では，失語症を持ちながら生きることの意味について検討されている．しかし，我が国日本では，脳卒中失語症患者と看護師とのあいだにあるやりとりについて，分かち合いといった間主観的な体験に着目し明らかにされていなかった．そこで研究者は，脳卒中失語症患とケア提供者とのあいだにある交感のありようを明らかにすることを目的とした研究を実施し，49観察場面から交感のありようを記述した．交感は，対話に開かれていることで成立しており，親しみや好感，相手を尊重する姿勢，相手に応じた期待，かかわることへの根気強さがあり，交感の可能性を生んでいた．また交感を成立させる患者とケア提供者は双方ともに身体を活用しており，日常生活場面ではお互いが言語を用いたり意思の確認をしなくても身体レベルで了解しつくされていた．このように，脳卒中失語症患者とケア提供者とのあいだで成立している交感のありようについて確認し紐解くことは，双方がすでに持ち合わせている力と，感情，体験，意思などを交わらせ共有する手がかりについて知ることができる．このような実践知を看護師に焦点をあてて明らかにしていくことは，看護学，看護実践への発展につながるものと考えられ，本研究は，脳卒中失語症患とのあいだで交感が成立している看護師の特徴を明らかにすることを目的とした．

［参考・引用文献］

◆Doolittle,D.N,（1994），脳血管障害からの回復の臨床民族学：Benner,P/相良－ローゼンマイヤーみはる監訳（2006），ベナー解釈学的現象学　健康と病気における身体性・ケアリング・倫理，医歯薬出版，

◆大山秀樹（2005），慢性期失語症におけるセラピタムの投与実験，高次脳機能研究，25(4)，297-305．

◆Stern, N. D, (1985)/小此木啓吾, 丸田俊彦監訳(1985), 乳児の対人世界, 岩崎学術出版社.
◆ Sundin , K . Jansson , L . (2003) , 'Understanding and being understood' as a creative caring phenomenon－in care of patients with stroke and Aphasia, Journal of Clinical Nursing, 12, 107－116.
◆Sudin, K. (2001), The Meaning of Skilled Care provider's Relationships With Stroke and Aphasia Patients , Qualitive Health Research, 11(3), 308－321.
◆Thomas,P.S,Polio,R.H,(2002)/川原由佳里監訳(2006), 患者の声を聞く－現象学的アプローチによる看護の研究と実践, エルゼビア・ジャパン.

２．研究の目的

脳卒中失語症患とのあいだで交感が成立している看護師の特徴を明らかにすることを目的とした.

３．研究の方法

（１）用語の定義

交感:ふたりの人のあいだで, 感情, 体験, 意思などが交わされ, 共有され, 一体感があること.

（２）研究方法

場面観察に基づくエピソード記述を行い, 質的記述的デザインとした.

（３）調査期間

2010 年 8 月～10 月.

（４）研究参加者

回復期リハビリテーション病棟に入院する脳卒中失語症患者 2 名とそのケアに携わる看護師 2 名で, 研究の同意が得られた人である.

（５）データ収集方法

参加観察とインタビューとカルテなどの記録物をデータ収集した.

（６）データ分析方法

観察内容を踏まえて記述したエピソードを, 脳卒中失語症患者と交感を成立させている看護師の特徴に着目しながら解釈した. 参加観察では, 研究者自身が測定用具となるため, 交感が成立している看護師をどれだけとらえ解釈できるかが, データの厳密性・真実性にも大きく影響すると考えられ, 研究者自身が中心的な意味からはずれた解釈にとどまらないように研究者の解釈を提示し研究参加者に確認し, 専門家のスーパーバイズを適宜受けた.

（７）倫理的配慮

当該施設の委員会で承認を得た研究計画書に沿って, 本研究を依頼, 実施した. 研究の趣旨や匿名性の保持等について, 患者に合わせたコミュニケーション手段と文書を用いて説明し, 患者の家族あるいは重要他者が同席のもと, 研究参加の同意を得た.

４．研究成果

患者と看護師との場面記述から, 交感を成立させている看護師の特徴として, 【患者の視線を自分に合わせようとする】【物を示しながら患者に声をかける】【患者にゆっくり声をかける】【ジェスチャーを活用する】【患者に触れる】【時間をかける】【患者の気持ちを代弁する】【患者の顔を見つめる】を抽出した.

脳卒中失語症患者と交感を成立させている看護師には, 患者が戸惑いなく身を委ねられる振る舞いや働きかけがあることが示唆された. つまり, 交感が成立させている看護師には, 患者のペースに合わせて寄り添う特徴があると考えられた.

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計１件）
山下裕紀，高橋直美，坂上晶代，脳卒中失語症患者とのあいだで交感が成立している看護師の特徴，第 5 回日本慢性看護学会，2012 年 6 月 26 日，岐阜.

６．研究組織
(1)研究代表者
　山下　裕紀（兵庫大学・健康科学部・講師）
　研究者番号：40326319